

市民の取組に関するアンケート集計結果について

1 アンケートの概要

石巻市環境基本計画における市民に求められる取組の前年度（令和4年度）の実施状況を確認するため、アンケート調査を実施した。

アンケートは、対象者を石巻市内の小学校児童の保護者（家族全員で話し合って記入）とし、市内小学校32校のうち8校を実施校として、合計321名に対して実施した。

全体の回答者数は56名であり、回答率は17.4%であった。集計結果については以下の通りである。

※令和5年度より、デジタル社会の形成を図るため、インターネットによるアンケート調査を実施。

2 回答者の内訳について

(1) 各学校の回答状況

学 校 名	対象学年	送付数	回答数（人）	回答率
蛇田小学校	6学年	124	10	8.1%
稲井小学校	6学年	47	17	36.2%
飯野川小学校	6学年	23	5	21.7%
雄勝小学校	全学年	21	0	0%
広渕小学校	6学年	33	10	30.3%
桃生小学校	5・6学年	30	5	16.7%
北上小学校	5・6学年	29	7	24.1%
大原小学校	全学年	14	2	14.3%
合計		321	56	17.4%

(2) 回答者の児童との続柄

続柄	回答数（人）	割合
父親	5	8.9%
母親	51	91.1%
祖父	0	0%
祖母	0	0%
同居親族	0	0%
その他	0	0%
合計	56	100%

(3) 回答者の年齢

年齢	回答数 (人)	割合
20代	0	0%
30代	14	25.0%
40代	38	67.9%
50代	4	7.1%
60代	0	0%
70代以上	0	0%
合計	56	100%

(4) 回答者の職業

職業	回答数 (人)	割合
農業	0	0%
漁業	1	1.8%
会社員	22	39.3%
公務員	7	12.5%
家事専業	5	8.9%
自営業等	0	0%
無職	0	0%
その他	21	37.5%
合計	241	100%

※無回答1名

3 集計結果

市民が実施できた取組として、「あてはまる」が90%以上となった項目は、

- ①「自然をごみで汚したり、踏み荒らしたりしないようにしている。」96.4%
- ②「希少な動植物を持ち帰らないようにしている。」92.9%
- ③「生態系を守るため、ペットを捨てたり、外来種を放したりしないようにしている。」96.4%
- ④「野生動物に餌を与えたり、生ごみ等をあさられたりすることのないように気を付けている。」94.6%
- ⑤「文化財などを傷つけたり、壊したりすることのないようにしている。」100%
- ⑥「自動車やオートバイから騒音を出さないようにしている。」91.1%
- ⑦「川や海にごみを捨てないようにしている。」100%
- ⑧「消毒薬や殺虫剤、除草剤等は正しく使い、必要以上に使わないようにしている。」91.1%
- ⑨「ごみ出しのルールを守っている。」98.2%
- ⑩「ごみの野外焼却を行わないようにしている。」92.9%
- ⑪「ポイ捨てをしない、ペットの飼育や散歩などでのマナーを順守するなど、

街の美化に努めている。」96.4%

の11項目であり、自然環境及び地域環境の保全や、身近なごみ問題に関する分野が上位を占めた。

また、「あてはまらない」が50%以上となった項目は、

①「航空機騒音対策に関する活動の取り組みを知っている。」75.0%

②「できるだけ自動車ではなく公共交通機関を利用するようにしている。」91.1%

の2項目であった。航空機騒音対策に関する取組については、体験活動ができる場の提供や、取組についての普及啓発が必要と考えられる。

また、公共交通機関の利用については、徒歩圏内に公共交通機関がないことや本数の少なさから自動車を利用せざるを得ないという事も推察される。

4 自由記述（回答者が住んでいる地域で環境について問題に思っていること）

《蛇田小学校》（石巻地域）

- ・燃えないゴミの日が月イチで困る。以前のように2回に増やして欲しい。リサイクルしようと分解して処分しても、燃えないゴミが月イチで溜まって仕方無い。
- ・近所の人達が飼っている猫が放し飼いで、自宅の庭に入って来て、糞尿の処理に困っている。

《稲井小学校》（石巻地域）

- ・電力の供給源を風力発電や太陽光発電などのクリーンエネルギーへ移行を推奨する流れが公立の学校でも起きている事を懸念しています。公立の幼稚園、小中学校では、あくまでも読み書き計算などを教える場所であるべきで、脱炭素や地球温暖化、クリーンエネルギーへの移行などを推進する様な内容の授業はするべきではないと思います。特に太陽光発電や風力発電にはマイナスな部分もたくさんある事が国内外の研究結果から出ています。野生動物の棲家を剥奪したり、将来壊れたり使い物にならなくなったソーラーパネルが膨大な量の産業廃棄物となった際の処理など、様々な観点から評価すべきですが、太陽光発電の利点だけを取り上げて子ども達を教育するのは国を掲げた洗脳のようなようです。また、ソーラーパネルがウイグル自治区の強制労働の問題を助長する事実も教えられていません。人権問題へと繋がっている事などはひた隠しにされ、SDGs（持続可能な開発目標）という名のもとに、世界の少数の人たちが持続的に人や環境を管理しやすいシステム作りのために環境問題を利用するのは誠実ではないと思います。環境について教えるのであれば、地球は常に温暖になったり寒暖になったりするサイクルの中に存在する事、石油などの資源には限りはあるが今のペースで使用して行ってもあと1000年以上資源は尽きないという研究結果も出てる事、空気中に放出される炭素の大半は中国から来ているものであって、大半の国が脱炭素に向けて努力したとしても中国が何もしなければほとんど意味がない事などを教えて欲しいです。企業や政府のプロパガンダに義務教育を利用するのは辞めるべきです。

《飯野川小学校》（河北地区）

- ・空き家が増えている。処分にお金がかかる為放置している人が多い。解体補助金や、土地の売却、貸家等が出来る体制に力を入れてほしい。

《広瀬小学校》（河南地域）

- ・小中高の若い子よりも高齢者（特に男性）のゴミに対する意識が低すぎる。散歩の途中で缶コーヒーやビンをそこら辺へ捨てたり、用水路へ紙タバコをポイ捨てしたり。子どもよりも50代以上の方に訴えかけるべき。どちらかという子どもは、大人のそんな姿を見て引いています。
- ・空き家になっている土地の木が伸びて、困っている。
自分の家の作業場が危険（半分以上屋根が崩れている）で、解体したいが資金が難しい。市での補助があると助かる。

《北上小学校》（北上地区）

- ・自動車で走っているとごみが入っている袋が道路脇に捨てられているのを目にする事があります。そして車の窓からタバコをポイ捨てる人もいます。どういう気持ちで車からポイ捨てるのか私には分かりません。

《大原小学校》（牡鹿地域）

- ・牡鹿半島に在住です。民家があまりない場所(道路沿い)へのゴミの投棄が多くあります。そのゴミを動物が荒らし、更にゴミが周囲に散らかっています。ゴミの不法投棄を予防する看板の設置や、不法投棄をやめるよう広報などで周知を行って頂きたいです。

【調査結果概要】

自由記述では、「ゴミのポイ捨て」「ゴミ捨てのルールや集積所」に関する意見が多く、どの地域においてもごみ問題は身近な環境問題として意識されていることが分かった。また、空き家問題、飼い猫の糞尿問題などの意見も寄せられた。